

# コミュニティ・スクール「試行の年」の成果と課題 来年度の取組について

- 1 試行の年の成果と課題
- 2 課題の解決に向けて
- 3 令和5年度の取組について

# I 試行の年の「成果」と「課題」

## ① 今年度実施した取組を振り返る

### 学校運営協議会・学校部会の開催



### エリアコーディネーターの配置



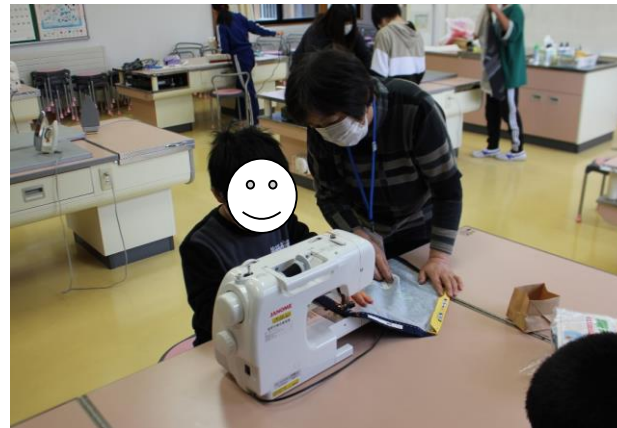
### エリアコーディネーター 連絡会議（月1回）



### 地域の方々とともに課題の解決に向けた取組の実施



遠野小・放課後学習支援活動(丸付けボランティア)



上郷小・ミシンボランティア



宮守小・防災教室の講師

推進に向けた研修会の開催



「熟議」の実施



制度や取組のPR

遠野市のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた動きをお知らせする

**遠野のCS かわらばん** 第6号 R4.10.11発行

【発行担当】遠野市教育委員会市民センター生涯学習スポーツ課 02-4413 Mail gaku-spo@city.tono.iwate.jp

**委員の意見が連携・協働の原動力** ～学校部会が行われています～

7月から今月にかけて、学校部会が一部の小・中学校で開催されています。今回の部会では、授業の見学や1学期の「まなびフェスト」取組状況についての説明、2学期に予定されている活動についての検討などが行われました。このうち9月13日に行われた第2回遠野小学校部会（鈴木圭計部会長）では、1学期「まなびフェスト」取組アンケートについて説明が行われた後、これまでに地域との協力のもとで行われた、あいさつ運動や学校協議会の委員の取組について協議が行われました。「きちんと挨拶をしたら来てもらえる」と「手伝ってもらって助かる」など、子どもたちからの感想が紹介された後、委員からは「参加した地域の方も『楽しかった』と話している。学校に協力したいという地域の方はたくさんいるので、誘い方を考えていく必要がある」などの意見が出されました。一方で、地域に対してコミュニティ・スクールをどう周知していくか、地域教育協議会をはじめとした団体との連携や課題との意見も出されました。委員の意見が、学校と地域の連携・協働の推進に欠かせない原動力であるということが、会議の状況やその後の取組の様子からも明らかになっています。

**「つなぐ」ための「共有する・考える場」として**～「エリアコーディネーター連絡会」を開催～

コミュニティ・スクールの導入に合わせて、市教育委員会では「エリアコーディネーター」を中学校区に各1名配置しています。エリアコーディネーターは、学校の課題等を把握したうえで、「学校と地域をつなぐ」役割を担っており、月1回「連絡会議」を開催し、それぞれの活動や課題を共有するとともに、よりよい実践に向けた検討を行っています。10月4日に行われた



遠野テレビ「わらすっこナビ」

県の研修会での発表



「学校と地域の連携・協働推進研修会」(R4.8.9)

## ② 試行の年の「成果」と「課題」

### ○ 成 果

- 学校運営協議会や学校部会の協議を基にした、学校の課題解決に向けた取組が見られ始めた。
- 学校運営協議会制度導入に併せて配置した「エリアコーディネーター」の活躍によって、これまで学校に関わりのなかった地域人材や地域資源が発掘されるなど、学校と地域の緩やかなネットワークの構築が見られ始めた。

### △ 課 題

- ① 学校運営協議会制度の幅広い理解の促進
  - ア) 地域教育協議会を始めとした地域の団体の位置づけ等の整理
  - イ) 具体的な連携・協働に向けたイメージの共有
- ② 「つながり」の強化と拡大に向けた手立て  
→学校運営協議会と学校部会のつながりやあり方等

何が違うんだ

何をすればいいんだ



## 2 課題の解決に向けて

### ① 「地域教育協議会」のあゆみとポイント

平成9年

#### 「地域教育協議会」の創設が提言される

平成9年7月  
遠野教育懇談会から  
遠野市教育委員会  
教育長に対して

##### 【提言内容（抜粋）】

- 社会の変化により、地域や家庭の教育力に大きな影響を及ぼしている。  
遠野教育懇談会では、学校・家庭・地域社会を通じて、大人一人ひとりが、子どもたちをいかに健やかに育てていくかを討議。
- その結果、体験活動を通じた心の教育や異年齢交流の場、地域の人材活用による学校の活性化など、地域に根ざした実際の活動を企画・運営し、地域の教育力の結集を担う中枢的な機関として「地域教育協議会」の創設を提言。
- メンバーは、地域の各界・各層の代表者からなり、学校週5日制に対応した青少年向け事業や異年齢交流の機会の設定、地域の生涯学習に関する事業、学校の交流等を地域の特性や人材を活かしながら、学校・家庭・地域の連携を強化するとともに、教育力向上の中枢として、公民館（地区センター）や社会教育関係者とともに地域の教育力向上のための多様な活動を企画・運営していくもの。

平成13年～

## 旧遠野市で地域教育協議会が順次結成される

→ 完全学校週5日制に対応する青少年向け事業を中心に、地域全体で子どもたちの成長を支える活動を地域ごとに実施。

市では、地域教育協議会運営補助金を交付し、活動を支援。

平成20年～

- ① 「学校支援本部」として併せて位置付け。
- ② 学校評価が始まったことで、外部評価を地域教育協議会に依頼するようになり、情報提供として「まなびフェスト」について説明が行われた。

平成28年

## 地域教育協議会運営補助金が他の補助金に統合

会議は開催していただいているものの、「ねらい」があいまいに…

## ② コミュニティ・スクールが始まって

令和4年～ コミュニティ・スクールがスタート。

### 【背景】

- 学校と地域社会も大きく変化し、それに伴って地域の子どもを取り巻く課題も増えている。
- 取り巻く状況が大きく変わった現状で、「地域の子ども」について1つの機関で協議・解決することは難しい。それぞれの機関の位置づけを踏まえて、より適切で効果的な役割分担のもとで取り組みを進める必要がある。



子どもたちの「生きる力」を育むために



学校運営協議会・学校部会  
(コミュニティ・スクール)

学校運営の課題や運営の状況について、その解決や改善、いっそうの充実に向けた方策の協議を通じ、地域とともにある学校づくりを目指すもの。

連携  
協働

地域教育協議会

地域の多様な関係者のもと、地域の大人による地域の子どもたちを対象にした事業や学校や家庭、地域の連携を強化するための取組を企画・運営し、地域の教育力の向上を目指すもの。

### ③ 地域教育協議会の「ねらい」

- 地域の子どもたちを中心にした事業や異年齢交流の機会の設定、生涯学習事業等
- 学校運営協議会や学校部会の協議を通じ、必要に応じて、学校の課題解決につなげるための情報の提供や取組にあたる。
- 多様な活動の企画・運営を図り、公民館（地区センター）や社会教育関係者ととともに、学校・家庭・地域の連携に努めながら、地域の教育力向上を目指す。



- 子どもの成長を支える地域の大人同士の横のつながりを深めること。
- 地域の大人が子育てを学んだり、人材の育成に努めること。  
（そのために、教育の目標や意識を共有すること。）
- 子どもや学校、子育て世代が抱える課題を理解する地域の大人を増やすこと。

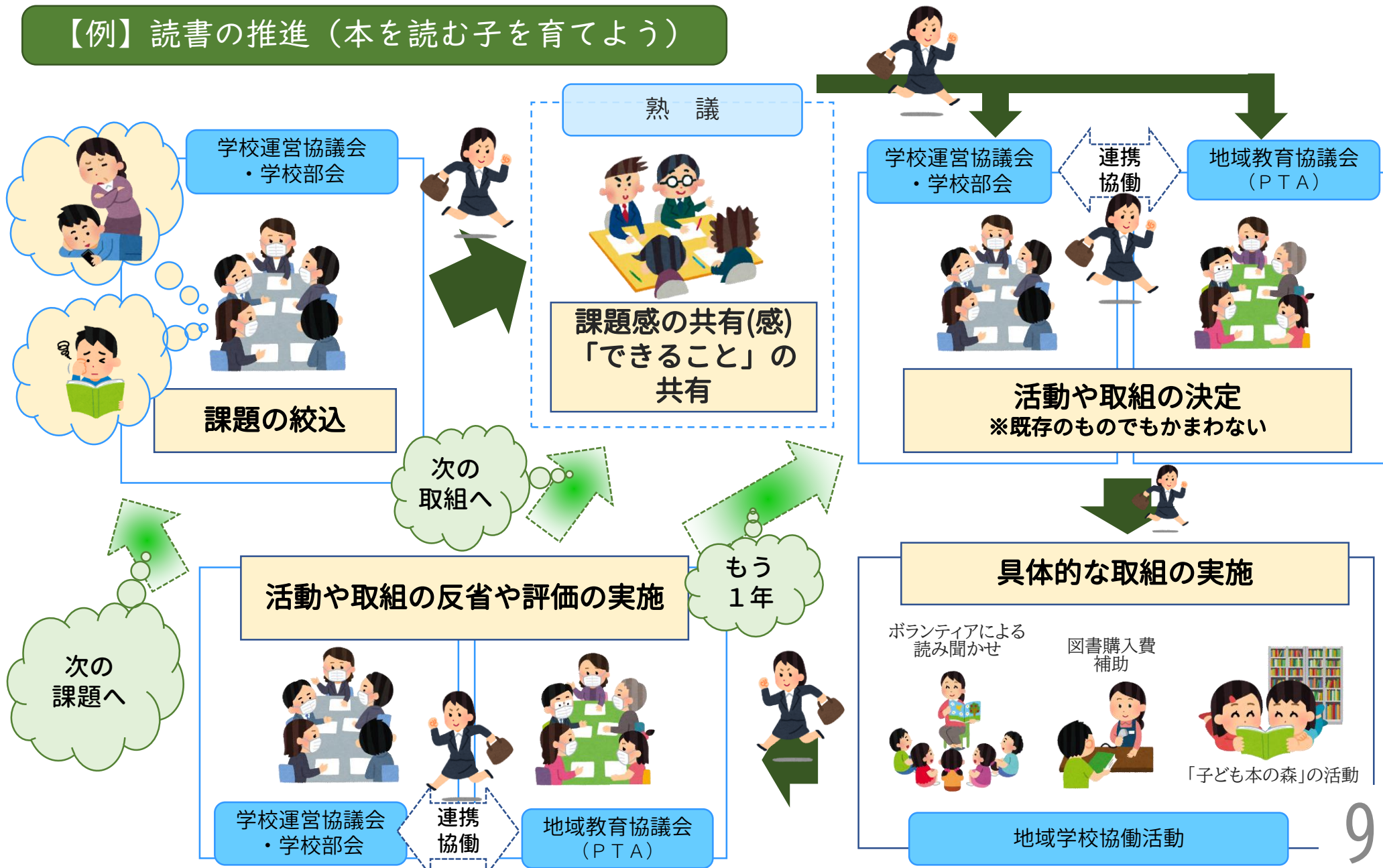
※「ねらい」さえ同じであれば、地域の組織は「地域教育協議会」にはとらわれない。  
（地域運営組織の教育部会との統合も可）

※国では、この「ねらい」の達成のために取り組む活動を「地域学校協働活動」とし、活動を推進する組織を「地域学校協働活動本部」と呼んでいる。



# ④ 連携・協働のもとでの一体的推進のイメージ

【例】読書の推進（本を読む子を育てよう）



## ⑤ 見えてきた推進のポイント



### 学校運営協議会では…

- 子どもたちの「小・中9年間」について協議できることを活かして
  - 小中連携のもとでの取り組みを地域に明らかにする。
  - ふるさと教育の取組を共有し、人材や地域資源の共有化を進める。

### 学校部会では…

- 「部会委員は校長のチームメイト」であることの再認識。
  - 課題や「言いにくいこと」を話すことができる関係づくりを。
  - 課題等が共有された部会ほど、具体的な取組につながる可能性が。

### PTAでは…

- 「自分たちができること。自分たちがすべきこと」の確認と共有を。



### 地域教育協議会（地域運営組織の教育部会）では…

- 地域の子どもたちについて、大人が取り組んでいることを共有することを進める。
- 「組織のねらい」を再認識したうえで、自ら取組にあたる。
  - ※ 必ず新しいことをする必要はない。既存の取組を再構築したり、構成団体や関係団体が取り組んできたことを強化することでも可。

### エリアコーディネーターは…

- 学校と地域をつなぐための更なる情報収集を。
  - エリアコーディネーターは学校や地域の課題を認識してきた。
  - 学校との関係をさらに深めるための手立てや地域との関係を作るための手立てをとともに検討していく必要。

### 3 令和5年度の取組に向けて

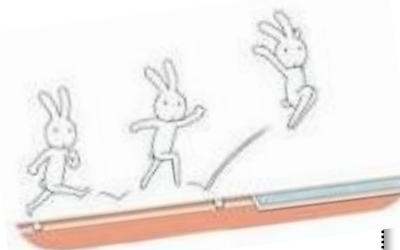


国立教育政策研究所  
志々田まなみ氏

「子どもが喜ぶからやる、学校に頼まれたからやる」というよりも、地域の一員である子どもの成長に必要な活動を家庭や学校と一緒に考え、関わろうとする地域の大人の成長も大切。今年度を試行の年、来年を本格実施と位置付けているが、**良い事案と紹介される多くのコミュニティ・スクールでは、定着までに5年程度要している。遠野市も、試行の年があと何年か続くと思う。ただその分揺るがない仕組みとなるのではないかと期待している。**

令和4年8月9日 岩手県教育委員会主催「学校と地域の連携・協働推進研修会」での助言から

- 2年目のコミュニティ・スクールは、  
**「トライ&エラー」の1年** と位置づけ、  
**「コミュニケーション」をキーワード** に取組にあたる。



- 1年目の成果を伸ばすとともに、トライ&エラーを繰り返しながら今年の課題を解決する1年に。
- 「推進のポイント」を共有し、中学校区及び各学校の「目玉の取組」を作る1年に。



よりよい制度となるよう、  
不断の見直しを行ってまいります。  
今後も皆様のご協力とご意見を  
よろしくお願いいたします。

ご清聴、ありがとうございました。